市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

俳句

特選

青空へ音響かせて剪定す
さつき3丁目　伊藤　幸子

木道のほかに道なき尾瀬ヶ原の池塘しずかに夏空を置く
緑2丁目　岩田　豊子

●特選の選評　木道を通らなければ他に道はない尾瀬ヶ原を、作者は「こんにちは」と声を掛け合いながら歩いている。そんなにぎわいをよそに木道の下の沼地の水たまりは、静かに夏空を映している。その対比が、うまく「池塘　夏空を置く」に集約されている。見事としか言いようがない。

加茂都紀女先生

入選

メダカ孵化五匹確認皆元気
緑2丁目　片嶋　青水

リハビリと鍬振る友のサングラス
石井町　吉澤　伸人

園児等の行くでこぼこの夏帽子
西2丁目　佐藤　順子

長嶋茂雄逝く雷鳴のただならず
さつき3丁目　伊藤　純夫

短歌

特選

サバ街道宇宙に伸ばす高校生
日の出1丁目　大島　康正

●特選の選評　若狭湾で捕れた鯖を京都へ運んだ鯖街道。優れた水産加工技術を世界へ発信しようとした高校生たちの研究と成果がJAXAに認められ、宇宙日本食のサバ缶が誕生した。高校生たちの努力が鯖街道を宇宙へ伸ばしつないだことにエールを送りたい。

藤本　都先生

入選

まだ身体動けるんだと思いつつ実家跡地の草刈りてゆく
野沢町　鈴木　孝男

洗顔の泡にくるんでふんわりと今日という日をお湯で流しぬ
さつき3丁目　和田　悦子

てふてふという名の幼馴染みいて菜の花畑の中で手を振る
立伏町　望月　睦子

藤の花揺らして過ぎるはつなつの風はむらさき夕暮れの苑
下岡本町　高尾　信尚

川柳

特選

じいちゃんのアロハのシャツが騒いでる
城東1丁目　綱川　光江

●特選の選評　若狭湾で捕れた鯖を京都へ運んだ鯖街道。優れた水産加工技術を世界へ発信しようとした高校生たちの研究と成果がJAXAに認められ、宇宙日本食のサバ缶が誕生した。高校生たちの努力が鯖街道を宇宙へ伸ばしつないだことにエールを送りたい。

佐藤隆久先生

入選

雑布の絞りに量る回復度
下田原町　五十嵐　由美子

畑を田に変えて倹にかける夢
氷室町　関　ふさこ

カラオケでおたまじゃくしににげられる
塙田2丁目　渡辺　眞左

俳歌柳壇の応募方法

●1人各3句（首）以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
●対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
●はがき表面＝住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
●はがき裏面＝作品（漢字にはふりがなも）・作品への思い。
●毎月20日（消印有効）までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
●WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市HPをご覧ください。

ID 1022877

▲市HP

表

郵便はがき
320-8540
宇都宮市役所
広報広聴課
住所・ふりがな
氏名・壇名

裏

作品
作品への思い
作品
作品への思い
：
：